

地域とつながるサツマイモ「小野芋好」

岐阜県立郡上高等学校 食品流通科3年 栽培専攻

さつまいも班

1. テーマ設定理由

郡上高校の安納ブランド「小野芋好」を多くの人に知ってもらい、地域振興につなげることが必要であると考えた。

多くの人に知ってもらうためには、食味や見た目が良いものでなければいけない。そこで私たちは、焼き芋に適したサツマイモを生産するために、土壌の二層構造化に取り組んだ。また、二層構造化をすることで収穫作業の効率化を図った。また、昨年度の畑の様子からサツマイモのつるが大量に廃棄されていることを知り、つるを活用することができれば、資源循環につながると考えた。その中で、アンケートを実施することで、つるに対する印象を調査し、販売方法の検討や資源活用に取り組んだ。

2. 栽培に関する取り組み

栽培では、土壌の二層構造化の有無による効果の違いを検証した。二層構造化の方法として、土を固める方法だと時間がかかってしまうため、「ポリカーボネート波板」を畝の下にひくことで収穫作業の効率化を目指した。また、実験区は図のように設定した。それぞれの区から調査株を2つ設定し、定植後から収穫前までの草丈の様子を調査した。



昨年度の課題点から、つるぼけを防ぐために収穫前に根本50cmを残してつるの切り取りを行った。

3. 販売に向けた取り組み

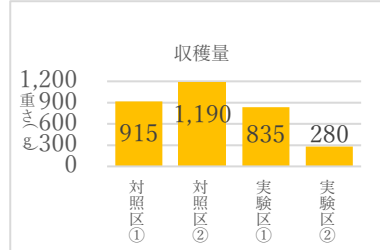
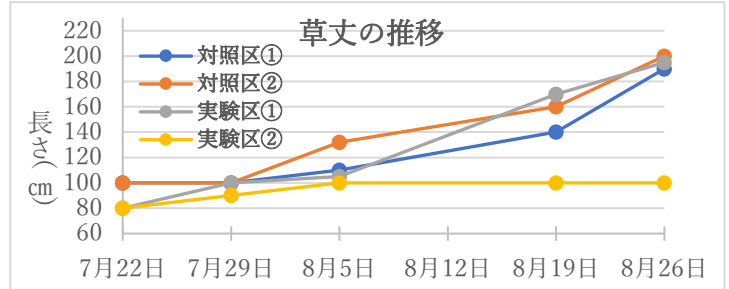
販売に向けた取り組みとして、昨年度に引き続き焼き芋器の製作を行った。昨年度の焼き芋器は、効率よく提供することに重点を置き、熱を逃がさないようにした焼き芋器を制作したため、今年もそれを採用した。

栽培の中で、切り取ったつるの活用として芋茎のきんぴら・芋茎の煮物の2品を試作した。試作結果からサツマイモのつるは十分提供できると考えた。また、つるの販売につ



いて農業科の先生と生徒に向けてアンケートを行った。アンケートの結果から、サツマイモのつるを買いたいと思わない理由に使い方がわからないといった回答が多数あったため、つるを購入してくださった方につるのレシピをつけて販売を行うことにした。

4. 結果



・草丈では、定植直後は同じだったが、一か月後の8月19日から実験区②の草丈の成長が止まった。最終日にはほかの3つの調査株と比べ100cm差が出た。

- ・収穫量では、对照区②、对照区①、実験区①、実験区②の順になり、実験区よりも对照区のほうが収量が多かった。
- ・ポリカーボネート波板を入れた実験区の株は、細根がたくさん張っていた。

5. 考察

・実験区②の収穫量が、对照区よりも少なかった。これは、ポリカーボネート波板をひいたことが原因であると考えられる。私達が食べる塊根部分は主根が肥大したものである。そのため、定植後苗が成長する過程で、主根がはやくポリカーボネート波板にぶつかったことでサツマイモが水分や栄養を取ろうと細根を多く張り、その分主根がそれ以上成長しなかったため、収量が減ったと考えられる。



・ポリカーボネート波板をひくことで作業の効率化を図ったが、収穫の際、上に乗っている土が重すぎて板を持ち上げることができなかった。また、板を掘り起こす作業に時間がかかってしまったため、別の方法を検討する必要があると考えた。

6. 今後の予定

- ・販売の際に「小野芋好」に関する知名度、関心度アンケートを行うことで、昨年度に比べ知名度に変化があるかどうかを調査する。
- ・コロナ禍における販売方法の見直し。
- ・看板やポストカードのデザインの制作。